

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 4 部門第 1 区分
【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-536980 (P2004-536980A)
【公表日】平成 16 年 12 月 9 日 (2004.12.9)
【年通号数】公開・登録公報 2004-048
【出願番号】特願 2002-561149 (P2002-561149)
【国際特許分類第 7 版】
E 0 5 B 75/00
【F I】
E 0 5 B 75/00

【手続補正書】
【提出日】平成 16 年 12 月 9 日 (2004.12.9)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

シリンダロックにおいて、
内部に回転可能に配置された回転可能なプラグを有するハウジングであって、該ハウジング固定された固定のプラグを有する前記ハウジングと、
該ハウジング内に摺動可能に取り付けられ且つ錠止位置と非錠止位置との間を摺動可能な非回転可能な軸であって、前記ハウジングの一端から伸びる作動端部と、前記ハウジングの他端から伸びる掛止端部とを有する前記非回転可能な軸と、
該非回転可能な軸と係合し得るように配置された 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントとを備える、シリンダロック。

【請求項 2】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、前記固定のプラグ及び前記回転可能なプラグの 1 つ又は 2 つ以上の軸方向に整合した穴内に受け入れられた 1 つ又は 2 つ以上のタンブラピンを更に備える、シリンダロック。

【請求項 3】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、前記 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントが前記回転可能なプラグの半径方向穴内に取り付けられる、シリンダロック。

【請求項 4】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、約 144 乃至約 180° 隔てた範囲に取り付けられた 2 つ又はより多くの保持エレメントを備える、シリンダロック。

【請求項 5】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、ばねが前記軸を非錠止め位置に偏倚させる、シリンダロック。

【請求項 6】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、前記軸に固定状態に接続されたアクチュエータであって、前記固定のプラグの軸方向溝内に受け入れ得るように整合され、これにより、前記軸及びアクチュエータの回転が阻止されるようにする脚部を更に有する前記アクチュエータを更に備える、シリンダロック。

【請求項 7】
請求項 1 のシリンダロックにおいて、前記 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントが、前記

軸が作動されたとき、前記軸の溝内に受け入れられる、シリンダロック。

【請求項 8】

シリンダロックにおいて、

内部に回転可能に配置された回転可能なプラグを有するハウジングであって、該ハウジング固定された固定のプラグを有する前記ハウジングと、

該ハウジング内に摺動可能に取り付けられ且つ錠止位置と非錠止位置との間を摺動可能な非回転可能な軸であって、前記ハウジングの一端から伸びる作動端部と、前記ハウジングの他端から伸びる掛止端部とを有する前記軸と、

該非回転可能な軸の 1 つ又は 2 つ以上の整合溝と係合し得るように配置された 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントとを備え、回転可能なプラグの回転により保持エレメントが前記 1 つ又は 2 つ以上の溝から非係合状態となるようにした、シリンダロック。

【請求項 9】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、前記 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントが前記回転可能なプラグの半径方向穴内に取り付けられる、シリンダロック。

【請求項 10】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、約 90 乃至約 180° 隔てた範囲に取り付けられた 2 つ又はより多くの保持エレメントを備える、シリンダロック。

【請求項 11】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、ばねが前記軸を非錠止位置に偏倚させる、シリンダロック。

【請求項 12】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、前記軸に固定状態に接続されたアクチュエータであって、前記固定のプラグの軸方向溝内に受け入れ得るように整合され、これにより、前記軸及びアクチュエータの回転が阻止されるようにする脚部を更に有する前記アクチュエータを更に備える、シリンダロック。

【請求項 13】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、前記軸が作動されたとき、前記 1 つ又は 2 つ以上の保持エレメントが、前記軸の溝内に受け入れられる、シリンダロック。

【請求項 14】

請求項 1 のシリンダロックにおいて、回転可能なプラグが、1 つ又は 2 つ以上の鋸引き抵抗ピンを更に備える、シリンダロック。

【請求項 15】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、回転可能なプラグが、1 つ又は 2 つ以上の鋸引き抵抗ピンを更に備える、シリンダロック。

【請求項 16】

請求項 8 のシリンダロックにおいて、軸の作動端部がボールベアリングを更に備える、シリンダロック。

【請求項 17】

請求項 1 のシリンダロックにおいて、軸の作動端部がボールベアリングを更に備える、シリンダロック。

【請求項 18】

シリンダブロックにおいて、

内部に回転可能に配置された回転可能なプラグを有するハウジングであって、該ハウジング固定された固定のプラグを有する前記ハウジングと、

該ハウジング内に摺動可能に取り付けられ且つ錠止位置と非錠止位置との間を摺動可能な非回転可能な軸であって、前記ハウジングの一端から伸びる作動端部と、前記ハウジングの他端から伸びる掛止端部とを有する前記非回転可能な軸と、

を備える、シリンダブロック。

【請求項 19】

請求項 18 のシリンダロックにおいて、前記軸に固定状態に接続されたアクチュエータ

であって、前記固定のプラグの軸方向溝内に受け入れ得るように整合され、これにより、前記軸及びアクチュエータの回転が阻止されるようにする脚部を更に有する前記アクチュエータを更に備える、シリンダロック。

【請求項 20】

請求項 18 のシリンダロックにおいて、ばねが前記非回転可能な軸を非錠止位置に偏倚させる、シリンダロック。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

このように、ロック本体ハウジング 30 は、押ボタンシリンダ又はその他の錠止機構を受け入れる穴 62 を更に備えている。押ボタンシリンダ 60 は、錠止レバー 50 に対し垂直に取り付けられている。錠止レバーは、Z 字形のプロフィールを備えることが好ましく、また、錠止シリンダの軸 68 と係合し得るように配置された肩部 66 を有する中間部分 64 を更に有している。押ボタンシリンダが押ボタンの外端 70 を押すことにより錠止位置に作動されたとき、押ボタン軸の末端 65 は、錠止レバーの肩部 66 と係合し、錠止レバー 50 を錠止又は固定位置に完全に錠止する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

押ボタンロック組立体を開錠するためには、適正な鍵を差込み、タンブラピンの端部を固定のプラグと回転可能なプラグとの間に存在するせん断線と整合させる。このとき、回転可能なシリンダは、鍵によって回転させることができる。回転可能なシリンダが回転すると、該シリンダは、保持エレメントを錠止回り止め部の平坦部から非係合状態にし、保持エレメントが平坦部からカム動作して外れるようにする。保持エレメントが非係合状態になると、押ボタン軸に作用するばねは押ボタン軸を内方に偏倚させ、押ボタン軸の掛止端部が後退し、これにより錠止レバーのような独立的な機構を非錠止状態にする。次に、鍵をその最初の位置に回転して戻し、除去する。これで、ロック組立体は、再度、施錠の用意が整う。

押しボタンアクチュエータ 108 の整合脚部 142 と固定プラグ 102 の軸方向溝 141 の係合のために、アクチュエータ 108 は押しボタンシリンダロック 60 の錠止めと非錠止めへの移動の間回転しない。押しボタン軸 68 はアクチュエータにリテーナピン 118 によって固定されているので、押しボタン軸 68 もまた押しボタンシリンダロック 60 の錠止め及び非錠止めへの移動の間回転しない。結局、アクチュエータ 108 と押しボタン軸 68 の両者は、それらが押しボタンシリンダロック 60 の他の全ての部分に対して永久に回転するのを阻止されているため、押しボタンシリンダロック 60 内で軸方向に摺動できるだけである。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 8】

